

おもしろ社会⑤（歴史編）

縄文時代（2） 次の5つは、縄文時代に使われていた「石器」です。

どのような作業に使われたかを考えて、線で結びましょう。

【石器】

【作業】

だせいせきふ 1 打製石斧 15～25cm	
-----------------------------	---

・

・ 動物をつかまえる

ませいせきふ 2 磨製石斧 10～20cm	
-----------------------------	--

・

・ 木や枝を切る

せきすい 3 石錘 4cm ほど	
------------------------	---

・

・ 魚をつかまえる

せきぞく 4 石鏃 1～2cm	
-----------------------	---

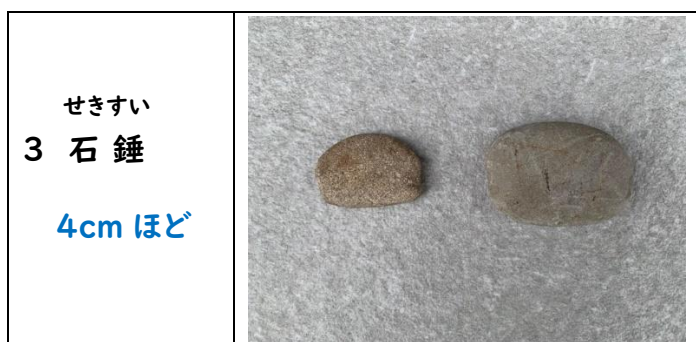
・

・ 地面に穴を掘る

答えと解説

縄文時代(2)

【石器】



【作業】

動物をつかまえる

石鏃は「やじり」とも言われ、弓矢の先に取り付け、毒を塗って動物をねらいました。黒曜石や下呂石（げろいし）、チャートなどの石を選んで作られました。

木や枝を切る

磨製石斧は、凝灰岩や緑色泥岩などきめの細かい石で作られました。時間と手間をかけて研磨し、滑らかに作られているため、木の繊維を断ち切るのに適しています。

魚をつかまえる

石錘は、魚をとらえる網（あみ）のおもりとして使われた石器です。丸石の両側を打ち欠いたり、削ったりして結びが取れにくいよう工夫しました。

地面に穴を掘る

打製石斧は、てのひらサイズの平たい石を打ち欠いて作られました。主に穴を掘る道具として使われたと考えられています。